

【基本情報】

教 科	地歴公民科	学 年	3年	教科書	高等学校 新倫理 最新版 （清水書院）
科 目	倫 理	単位数 (年間予定コマ数)	2 (64)	副教材	テオーリア最新倫理資料集 （第一学習社） 完全M A S T E R倫理問題集 大学入試共通テスト （清水書院）
科 目 概 要	青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解を深めるとともに、人格形成に努める意欲を高め、他者と共に生きる自己を確立し、良識ある公民としての自覚を身につける。				
到 達 目 標	青年期のあり方、世界の三大宗教、東西の源流思想、近現代思想及び現代の諸課題について理解を深め、自ら考える主体性を身につけさせる。				
授業の進め方	・各単元の基本的内容を踏まえつつ、順次発展的内容についても触れていきます。 ・授業は、教科書や資料集及び必要な資料（新聞記事など）を使って進めます。教科書・資料集の大事な箇所には必ず印やアンダーラインをつけることを習慣化してください。 ・思想のつながりや共通点についても説明しますので、自分の頭の中で関連づけて考える習慣を身につけてください。				
留 意 事 項	・配布されるワークシートをノートに貼り付けるかもしくはファイルにまとめるなどして使用してください。ワークシートは答えの穴埋めだけにとどまらず、全体的に捉えて利用してください。 ・板書に際しては、項目の重要度等に応じて色チョークで色分けします。 ・忘れ物は絶対しないこと。もし忘れた場合は事前に申し出てください。 ・定期考査において漢字で書けるものについては漢字で書かなければ原則正解にしませんので、普段から意識して漢字を使うようにしてください。 ・教師の発問に対する応答や質問など、積極的に授業に参加してください。				
家 庭 学 習	・それぞれの思想の特徴をワークシートを使い確認するとともに、その類似点や関連性についても自分なりに考える習慣を身につけることで思想の理解が深まります。 ・問題集を予習・復習に効果的に使ってください。（特に知識定着に役立ちます）				
備 考					

【評価の方法】

観 点	ポイント	割 合	評価項目
A. 関心・意欲・態度	先哲の基本的な考えを手がかりとし、人間の存在や価値について思索を深める。	3 0 %	主にワークシートの作成・提出状況で評価します。（ワークシートの作成方法及び評価の観点は授業中に説明します。）
B. 思考・判断・表現	先哲の思想を足がかりとし、自らの考えや意見を論理的にまとめられる。	1 0 %	原則的に定期考査の中で「思考・判断・表現」に関する問題を5 %分出題します。残りの5 %分は主題学習に関わる部分で評価します。
C. 資料活用能力	先哲の思想の学習を通じて、古典に親しむ態度や習慣を養い、思想的な文章を読んで理解できる。	1 0 %	原則的に定期考査の中で、資料を用いた「資料活用能力」に関わる問題を出題します。
D. 知識・理解	先哲の基本的な考えを他の思想と関連づけながら体系的に理解し、身につける。	5 0 %	原則的に定期考査の中で「知識・理解」に関わる問題を出題します。

【年間計画】

単 元	配当時数	学習内容	観点別評価				到達目標
			A	B	C	D	
第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現に向けて 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問い 第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教ー愛の宗教 第2節 イスラーム 第3節 仏教	20	・人間性の定義・人間存在の特性について理解させる。 ・青年期の特性と課題を把握させる。 ・欲求と適応、パーソナリティの形成について理解を深める。 ・アイデンティティとは何かを知り、その確立の重要性を理解させる。 ・哲学を生み出した古代ギリシア人の世界観を理解させる。 ・ソクラテス・プラトン・アリストテレスの思想について、理解を深める。 ・ヘレニズム思想の特徴についてその歴史的背景を含めて理解させる。 ・キリスト教及びその母胎となったユダヤ教もについて理解を深める。 ・イスラームの成立、宗教的な義務や戒律を中心とするその教えの特徴を理解させる。	○	○	○	○	・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて他者と共に生きることを考え自己の生き方が現代の倫理的課題と結びついていることを理解する。 ・自己の生きる課題との関わりにおいて、先哲の基本的な考え方を手がかりとして人間の存在や価値について思索を深める。
第3章 人生の知恵 1 孔子と儒家の思想 2 儒教の展開 3 道家の思想 第4章 人生における芸術 第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳 第2節 自然や科学と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり 第6節 現代における理性の問題	20	・仏教の特徴やその後の発展について理解させる。 ・諸子百家の思想を歴史的・社会的背景とともに理解させる。 ・現代社会のものの見方・考え方が近代の人間尊重の精神に基づいていることを理解させ、その本質について考えさせる。 ・ルネサンス、宗教改革について理解を深める。 ・近代科学は、数量的法則を発見し技術的に自然を支配する思想とともに発展したことを理解させる。 ・近代において、個人と市民社会がどのような過程を経て確立されたかを理解させる。 ・理性のあり方の変遷について理解を深める。	○	○	○	○	・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間のかかわり、民主会における人間のあり方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身につけさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考える。
第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来 第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	20	・日本の風土の特徴を理解するとともに、日本人の生き方について考察させる。 ・日本に移入された仏教のその後の展開について理解を深める。 ・儒教の日本化について理解を深める。 ・古典の研究として始まった国学がどのような内容を持つか理解させる。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのように捉えていたか理解を深めさせる。	○	○	○	○	・日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方生き方の自覚を深める。
第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和	4	・生命科学技術や先端医療が今日どのような倫理的課題をもたらしているか理解させる。 ・現代の諸問題について、理解を深める。 ・地球市民の一人として、多様な異文化との共生のあり方を考え、実践していく力を育む。	○	○	○	○	・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探求し、現代に生きる人間としてのあり方生き方の自覚を深める。